

小金井市立保育園の今後の運営に係る保護者説明会 議事録（質疑応答）

日時：令和3年10月9日 午後3時00分～午後5時14分

会場：小金井第一中学校 柔剣道場

対象：5園全ての保護者

参加者数：13人

【質疑応答】

○参加者 ちよっと全体的な話になるんですけども、今回、私たち保護者からすると、唐突に廃園だという話があって、民営化という話でずっと話が進んでいたのが、急に廃園だという話になって、私が言いたいのは、一つは、この先のスケジュール感というのがどうなっているかということ。

それから、この手の話で気になるのは、一旦条例が通ったら、もう何があっても変わらないというような、とにかく条例さえ通してしまえば、もうこっちのものだみたいになってしまうのが非常によろしくないと思っております。一つは、1ページ目、2ページ目とかで、例えば待機児童がここまで減って、0歳児も減ってきているので廃園にしますというふうにおっしゃっているので、別の事例ですと、多摩地区の市で、ここは待機児童が少なくて入りやすいといううわさが立つと、人がいっぱい引っ越してきて、待機児童が増えるというケースもあったと聞いてまして、そういうふうになったときに、やっぱり条例がもうあるから、令和10年4月で廃園するんだみたいな形になるのは非常にまずいと思うので、明確に、こういう条件だから、この条例案を通して、これがおかしくなったらきちんと戻すんだということは、明言という言い方は変なんですけど、表明していただきたいなと思っております。

幾つかあると思うんですけど、人が増えるとか、あとは、段階的縮小中に、幾つかの保育園が急にやめますとかというふうになったようなケースですとか、幾つかあると思うんですけども、そういうところをきちんと明確に、この条件が満たされ続けてから、令和10年3月末でおしまいにするというようなところを言っていたきたいというのが私個人としては思うところです。

それはダムとかもそうなんですけど、1回決まったら、何かもう二度と戻らないというのは、その後の情勢とかも刻々と変わると思うので、どうなのかなというふうに思い

ました。

○三浦保育課長 ありがとうございます。

答弁をお願いいたします。

○西岡市長 ご質問、ご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。

今後のスケジュール感、また、その条例改正の位置づけ、それから、今後の予測ですね。待機児童数や保育定員数、あるいは市の人口とも絡むかもしれませんし、出生数とも関連する部分ですが、今後の児童数や、保育園の需要と供給のバランスのことをおっしゃっていると思うんですけども、そういった状況が大きく変わるようであれば、一度決めたことも、その状況に応じて適用していくべきではないかと、また、そういったことも条件にすべきではないかというご質問だと思います。

今後のご質問へのご回答は、私と、担当部長と担当課長と連携しながらご答弁させていただきます。よろしくをお願いいたします。

まず、スケジュール感ということですが、現時点では、保護者の方への説明を今日からスタートいたしまして、全部で6回。今日は午前中同じ場所で開催し、2回目。この後、明日、そして来週と開催し、その後、市民の方々への説明会に臨ませていただきます。

まずは、現時点では、まずは方針案について関係者の皆様方、特に保護者の皆様方にしっかりご説明をし、ご理解をいただけるように尽くしていくことにまずは今は尽きると思います。

一方で、令和10年の3月31日をもって、先行して、まず2園。そして、わかたけ保育園に関しましては、その2園の状況を見ながらということになりますから、想定ではもちろん令和10年3月以降、その翌年度以降ということになりますが、まだ検討段階にあります。

令和10年3月31日ということで、このスケジュール感でいきますと、令和5年4月入所から、段階的な縮小の準備に入りますので、そういったことを考えますと、市が規定している条例や規則というものがありますので、その条例の改正というものを令和5年4月入所の、その以前に、令和4年の段階の次の入所の募集の時期となりますが、来年4月1日に向けましては、0歳児の募集は継続させていただくことになりましたので、令和5年4月1日の募集状況を踏まえますと、その前の入所の時期ということや、募集の告知などがありますから、そういったことを加味した形でスケジュールを組み立

てていくということになるかと思えます。

これは一般論ですが、条例というのは、一度、変えたら、微動だにしないということはありません。条例は改正する必要があるれば、それは改正することは可能でありますので、そのようにご答弁させていただきます。

それから、今後の見通しのところでございます。

待機児童の解消に向けまして、全力で取り組んできました。私は市長に就任させていただいて、今6年目を迎えているところですが、初めて市長に就任したときは、平成26年度の4月1日の待機児童数は267名。三多摩地域で待機児童率ワースト1という非常に厳しい1年。そこから市長に就任をしました。なので、まずは、この待機児童の解消ということを最重要課題と位置づけまして、様々な施策に取り組みました。

あわせて、民間保育園の皆様方に、小金井市で安定的に経営をしていただいて、そこで働く保育士の皆様方の処遇の改善をすることによって、小金井市で働いていただいた方々に定着していただきたいという思いもありますから、単に待機児童解消といっても、やることは実はいっぱいありまして、そこで働く保育士の方々の処遇の改善、当時は社会的にも保育士の皆様方のお給料や職場環境などについて、全国的な課題として挙げられていた時代であります。今もなお、その改善項目としていろんなことに取り組んでおりますが、そういった状況にも一生懸命取り組んでまいりまして、現時点では、4月1日時点で41名となりました。

待機児童に関しましては、来年4月に向けまして、新しい認可保育園を4園開設して、267名の定員増をさらに図ります。対象もほぼ1歳児の方々が、待機児童で大きな課題となっているところでございます。これまでも民間、公立含めて、1歳児対策というところに、いろんなご協力をしていただいているところでありますが、待機児童の解消は、以前に比べると随分見えてきました。

したがって、来年4月の段階で4園、新設保育園をつくります。しかし、令和5年4月以降については、今、一旦保留としています。まずは、来年の4月1日の段階で、待機児童解消をしっかり目指していきたいと思っております。そして、それ以後につきましては、人口やニーズの状況を見ながらの判断となりますので、そこは柔軟に考えていかなければいけない部分だと思っています。

ただ、一方で、小金井市の人口ビジョン、直近のものを見ますと、令和8年から9年は、小金井市は人口が微増しながら、その後は緩やかに人口は減少していくと考えてい

ます。しかし、ご指摘のような急激な、人口が急激な、さらに保育園を、またさらに何園も複数園も、毎年毎年さらに増やしていかなければいけないという状況が来るかどうかは、これはなかなか想定しづらいところですが、今の流れの中では、なかなかそこまではいかないだろうとは見ています。

なので、来年4月に向けて4園増やして、そこで一旦小金井市の保育園の全定員数はやや安定化を図っていくということ。あわせて、今後の人口の緩やかな減少、こういったものを踏まえて、また、民間保育園もこの間、相当増設されましたので、そういった民間保育園の皆様方には、小金井市でせつかく開設をしていただきました。そういった皆様方のことや、様々な総合的な判断によって、この間、廃園、段階的縮小から廃園という結論をさせていただいたところではございます。

総括的に私のほうからは以上でございます。

○平岡保育政策担当課長 平岡と申します。よろしく願いいたします。

先ほどおおむね市長のほうからお答えをさせていただきました。条例に関しては、一般論ではそういう考え方になると思っておりますが、私どもとして、結論から申し上げますと、今回、条例を出させていただくところまで考えているということから言わせていただきますと、6年間かけてという期間はあるんですが、途中で変更する想定というのはあまり考えてはおりません。

市長のほうからは、今後の見込みなどについても、なかなかそういう状況は見込まれないところも説明させていただいたところですが、今回、確かに幾つか周りの条件が整ってきたというような説明をさせていただいて、一つは、待機児童が減ってきていて、人口も今後減っていきそうだということ。それから、施設が老朽化していること。それから、将来的なお金の問題などについてお話をさせていただいているかと思うんですが、冒頭市長のほうからご挨拶させていただいたとおり、やはり一番問題だと思っているのは施設の老朽化の部分でありまして、この建物の問題については、今後、考えていく限り、好転するということは基本的にないと思っております。こちらについて、安全に保育をしていくために、当然、最後の最後まで必要な整備をしていくのは当たり前だと思っているんですけれども、ただ、全体的な老朽化に対する対応というのは、なかなか抜本的に状況が変わるということはないと思っております。

ですので、そういった点を考えますと、全体の状況で、よほど何かこちらで想定していないような状況でも起きない限りは、条例が仮に通ったということになれば、そのま

ま段階的に縮小させていただく形になっていくのではないかというふうに考えを持って
おります。

以上です。

○西岡市長 すみません。ちょっと補足です。

保育園の開設状況ですが、先ほど部長からもご説明をさせていただきましたけれども、
今年の4月1日の段階で、0歳児のところに51人の空きが生じているということや、
また、小金井市の場合は、適切な時期に年度途中、園児の募集ということで、各園の空
き状況をお知らせしてございますが、私が市長に就任した頃というのも本当に大変な状
況だったんですが、昨今では、1歳児は非常に重要な、高いところでありますけれども、
年齢によっては非常に多くの人数の空き状態が続いているという状態ですから、市とし
ては、過剰な保育園の飽和状態というのは、これはもう避けなければいけないというこ
とは考えているところです。

以上です。

○三浦保育課長 では、次の方、どなたかいらっしゃいますでしょうか。

○参加者 今日はありがとうございます。いろいろお伝えしたいことはあるんですけども、先
ほど、今後のスケジュール感のところ、まずは説明会をとという話だったんですが、説
明会の後が結局どうなるのかなというところがありまして、私たち保護者ですけれども、
保護者の方々との対話とか、一方通行でこういうふうにしたい、協力をお願いしますと
言われても、ちゃんと歩み寄りの期間というのを設けていただきたいというのは非常
に感じておりますので。説明会后、市民との、保護者との対話についてはどういうプロ
セスを考えていらっしゃるのかをお伺いしたいです。

あと、修繕に関しては、確かにぼろいですよ、はっきり言って。私も安全面は非常
に不安です。修繕の積立てとか、ファシリティマネジメントの観点とか、そういったも
のって考えられなかったのかなとか、そういったところをお伺いしたいです。

まずは、2点お願いします。

○三浦保育課長 はい。では、2点お願いします。

○西岡市長 ご意見をいただきまして、ありがとうございます。

対話の、私たちの姿勢を問われているんだと思うんですが。まずは6回の保護者向け
説明会、そして、市民の方々に向けた説明会、こちらをまずしっかり開催させていただきます。

その中で多様ないろいろなご意見、疑問、ご質問、ご批判、いっぱいあると思います。私たちとしては、さらに、先ほどの午前中もそうでしたけれども、もう一度やっていただきたいと、複数回開催していただきたいという声もいただきました。皆様方からもいろいろなお声があろうと思います。

まずは、説明会で、初めてこのような形をつくらせていただきましたので、いろいろとキャッチボールももちろんさせていただきますが、全体を通じてもそういう機会はこれからも必要だと思っていますので、まずは、開催させていただいて、6回の保護者向け説明会、2回の市民向け説明会を開催させていただいて、そこで出された市民の方の多様なお声というものをまた総合的に判断させていただいて、しっかりと考えてまいりたいと思っています。私としては、1度あったから、もうこれは二度とやらないとか、そういう考えは毛頭ありませんので、しっかり臨ませていただきたいというふうに思っております。

しかし、一方で、12ページにあります「保育サービスの拡充」というのがあります。ここで掲げられておりますが、大きな六つの項目があるんですけども、この保育サービスは既にやっているものもありますが、さらに拡充したいことや、ぜひ取り入れたいということがありまして、この保育サービスを私としては早期に実現したいという思いがあるんですね。これは民営化のときにも運協の方々といろいろとご議論させていただく中で、現状できないものでも、市が考えている方針がもし実現できれば、可能となるサービスも多々ありました。それを引き継いできているものもあります。

私としては、令和10年3月31日という期限、期間を設定しているものの、前倒しできるものは前倒しで設定させていただいております。あるいは試行的には実施できるものも考えておりますが、子どもたちの最善の利益というものを何よりも重視をするとともに、子育て、子育て、教育環境の充実を図るためには、ここに掲げられているような保育の施策の充実や、地域の方々のための取組を早く、拡充に向けた取組をさせていただきたいという思いがあることも、どうか知っていただければと思います。

次の質問をお願いします。

○参加者 さっき市長が、すみません、12ページのわかたけのところ、さっきのところですね、傍線が入っているのはどういう意味ですか。

○三浦保育課長 お答えいたします。

○平岡保育政策担当課長 平岡です。

今言っていたほうが多分簡単なので、そちらからお答えさせていただきます。

今回、わかたけ保育園さんも段階的縮小を行う該当園になっているという状況がまずあります。ですので、それ以外的小金井保育園とけやき保育園のほうで事業を充実していくものと、わかたけ保育園さんも含めて3園の状態ですばらく続く場合と両方あるので、わかたけ保育園さんとして充実していくものと、小金井とけやきだけでさらに充実していくものと区分けをさせていただいております。

ですので、今、12ページでご覧いただいておりますが、4番と5番については、それ用の人員を配置して増やしていくという考え方を持っていますので、そういった形でわかたけさんは今までどおり、園庭開放ですとか、今までの事業はやっていただく予定なんですけれども、さらにそれを強化するための職員を配置するということがないという意味で、棒になっているというところです。

それから、修繕の積立てのお話でございますけれども、正直に申し上げて、全国的に公共施設の問題というのはやはり起きていて、総務省のほうから、国のほうから、公共施設をこれからどうしていくんだという計画をつくりなさいというのが下りてきて、各自治体はそれをつくっているという状況があります。

そういった流れがある中で、小金井市だけではなくて、どこの自治体もやはりそういう将来に向かって、全ての施設に対しての積立てであるとか、定期的なメンテナンスの計画を持っていった例というのが、実はほとんどない状態だったというふうに思われます。

具体的に言うと、なかなか市民の方々に対して、そういったハード面の充実を図っていく時期というのが難しかったところがあったものですから、まずはつくっていった、充実を図っていくということで、小金井市もそうですけれども、精いっぱいだったというところが正直あります。当然こちらとしても、皆さんから頂いた貴重な税金ですので、無駄に使ってきたという思いはないんですけれども、やはりそういったものを建てていく、まずそこで各自治体とも精いっぱいであったのではないかとこのように思っています。

そういった中で、今後のことをどうするかということで、小金井は小金井で試算をさせていただいたところ、すごい多額なお金が建て替えるためには全部で必要になってきたということがあるものですから、これは、今まで確かに積み立ててこなかったことについては申し訳ないところはありますけれども、今後これをどうしていくかというのを、

お金の面でも考えていかなければいけない状況になってしまっているというのが今、実際の事実であります。

基金とって、それ用に積み立てていくお金という考え方もあるんですけども、なかなかその積立てを行っていくほどの余裕がなかった時期というのも小金井市もありましたので、そういった中で現状があるというところで、私のほうでお答えさせていただきます。

○三浦保育課長 すみません。答弁のほうも短めにお願いします。

次の方、いかがでしょうか。

○参加者 今も保育のサービスのお話があったかと思うんですけども、私の子どもは、くりのみ保育園通っているんですけども、今後、公立保育園を2園にして、段階的に縮小することで、保育士さんとかを集めてサービスを拡充していくというお話ですけども、正直これからのお子さんとかのことを考えれば、確かにいいのかなという感じはしますが、実際に今通っている子どもたちに関しては、どんどん園児も少なくなるし、保育士さんも抜けていきますし、それに対して残る公立園はスタッフが拡充されて、いいサービスがというふうに、どうしても、何ですかね、煮え湯を飲まされる感じというのは正直感じていまして。老朽化とか、お金がないとか、そういうことは本当に頭では理解していますが、ぶっちゃけ言えば、自分の子どもがかわいいので、その環境というのはどうにかして行ってほしいなど。

異年齢クラスは、触れ合う機会が少ないから、ほかの園とか、近隣小学校と地域交流をとという話もありますけれども、コロナ禍で小学校も全体で運動会ができないのに、そんなことができるのかなと正直に思いますし。その辺の不公平感というか、というのは正直感じるどころですし、もともと最初の、来年度から0歳児の募集をストップするというのが8月に出されたということで、案としては別にいいと思うんですけど、それをいきなりじゃあ、その8か月後にやるというほうが、私としてはちょっと衝撃的というか、そういうふうに、こちらからこういう案が出なければ、そのまま通すつもりだったのかなとか、その後すぐ、くりのみ保育園の署名活動が始まって、そういうのもあって1年延伸されたかと思うんですけども、1年延伸すれば、それだけ廃園にするスケジュールも1年延びて、その間に老朽化の検討とかはどうなっていくのかなと、そんなに簡単に1年延ばせるのかなと。延びてもらったほうがよかったと思うんですけど。

正直、廃園にしていく、くりのみ、さくら、わかたけの園のことを実際にどれぐらい

今、考えていただけているのかなというのは正直、疑問です。そこが親としては不信感があるところです。

なので、もちろんメリットのある話だとは思いますが、じゃあ残るくりのみ、さくら、わかたけの園児のこと、保育サービスの拡充、そのサービス、保育の質を落とさないことももっと考えていただきたいなと正直思います。質問じゃなくなったかもしれないけれども。

○三浦保育課長 要望のところと、保育の質のところをご答弁させていただきます。

○西岡市長 率直な思いをお聞かせいただきまして、本当にありがとうございます。また、ご自身のお子様のことですから、それは誰よりも心配をする、考えるのは当然のことと受け止めております。

市長といたしましても、冒頭申し上げましたが、今回の決断は、本当に苦しい決断です。しかし、小金井市の将来、未来、今を生きる子どもたち。もちろん、今、園児を預けていらっしゃる保護者の方、何よりも、今を生きる園児、子どもたちのことを考えてはいますし、市長としては、これほど苦しい決断はありませんでした。しかし、市の財政、将来、子どもたちの未来、そういったことを考えたときに、私としては、この方針案で臨ませていただきたいと考えました。

当初お示したスケジュールが、市議会や保護者の皆様方からのご要望書や、議会の陳情などいろいろなお声をお聞きしまして、1年延伸することや、0歳児の募集につきましては、今年は継続するという事ということで決断させていただきました。私どもの最初に提示した案について、そういった検討が不十分であったということ、ここは率直におわびを申し上げたいというふうに思います。

そして、何よりも今の園児のことをしっかりと考えてほしいと、それはごもっともなご意見でありまして、ぜひ私どもとしても、保護者の声をいただきながら、そして、現場の働いていただいている保育士さんや、子ども家庭部、そして、今後は、教育委員会の大熊教育長とも連日、私は、ほぼ毎日お会いして一緒に話をしているんですが、小学校との接続、切れ目のない子育て支援、これまで十分できなかった幼・保・小の連携などの取組について、教育委員会としても全面的に協力したいという言葉いただいておりますので、子どもたちの最善の利益、子どもたちの未来につながる取組、切れ目のない子育て支援というものにしっかり取り組んでいくための契機にしたいと思っています。

具体的には、これから詰めていくところもありますが、現時点で想定しているところ

につきましては、他の園との交流や小学校との交流、こちらからお出かけすることもあるでしょうし、また、今の保育園に来てもらうという交流もあると思います。

ただ、先ほど、午前中もご指摘いただいたんですけども、そうはいつでも、毎日、毎日一緒に生活している園児さんたちとの、言わば異年齢保育、集団保育の中でしか学べないことや得られない成長、成果、こういったものがやはり薄まってしまう。どのように頑張っても、それは短期的なものではないかというご意見も実はいただきました。

しかし、そういったお声をいただきながら、私どもとしては、できる限りのことは当然していきたいと思っていますし、今から段階的縮小ということで、年次ごとに募集が停止され、そして、最後は5歳児だけの年が1年間生まれてしまいます。そのことも十分認識しておりますので、その職員体制、給食、看護師体制も含めて、職員体制についてはしっかり対応したいと思っています。

そして、子どもたちのためにできる、今想定していないことについても、これはしっかりやろうということ、新たに発生した事案についても、私としてはしっかり取り組んでいきたいということを考えているところでございます。

冒頭、私からは以上でございますので、担当のほうから、異年齢保育対策のところについて、もう少し詳しくお話をさせていただきたいと思っております。

○平岡保育政策担当課長 平岡です。

ほとんど市長のほうで答えをさせていただいたところはあったかなと思います。市長の挨拶の中にもありましたけれども、やはり最後まで責任を持ってお子さんの保育を行っていくというところに尽きると思っておりますし、お子さんの数が減ることによって、保育士の配置人数について、最後まで同じということにはなかなかかならないんですが、きちんと保育ができる体制は整えていきたいというふうに思っておりますし、ハード面のメンテナンスもきちんと行っていきたいというふうに思っております。

また、異年齢保育の件も先ほど出ましたが、私たちもまだまだできることがあるのではないかと思っておりますので、そういったことも含めて、引き続き検討して、できることは取り入れていきたいというふうに思っております。よろしく願いいたします。

○参加者 ありがとうございます。くれぐれもよろしくお願いいたします。

○三浦保育課長 では、後ろの方。

○参加者 今日はありがとうございます。ちょっと幾つかお聞きしたいことがあるんですけども、先ほど話があったことは、建て替えとか修繕、そういったところのお金に対して積

み立てていく機会がなかったと、そういう話があったかと思います。今後もその財政難が続いていくというところで、やはり税金が上がっていかない。そういうところでいろんな予算を切り詰められているんだろうなというのはお察しします。

そういった中で、減らすというところだけではなくて、税金を増やすというところを考えられているのかなというところがお聞きしたい点です。少なくとも、こういった増やす努力をしていましたというところは、一市民である私は分からないので、そこは示してもらえるようにしていただきたいなど。

ふるさと納税、こういった制度があると思うんですけども、これが始まったことで本来の市に入る税金というところは、もう多分マイナスになっているんじゃないかなと思っています。見るところによると、4億だとか5億とか、それぐらい入ってこなくなったということも読んだことがあります。ちょっとそこは間違っていたら申し訳ございません。もしそれだけの税金が本来入るのであれば、さっきの建て替えに4、5億かかるというところもそれで十分賄えるんじゃないかなというところは思いました。

やはりそういった税金を増やす努力というところが見えるような形にして、やれることはやったんだ、それでも駄目だということで、もう申し訳ないけど廃園にしてほしいというところであればまだ分かるんですけど、一方的に廃園が出てきてしまうというのは、やっぱり憤りを感じてしまうのかなと。

あと、もう一つ、ちょっと例を挙げさせていただきたいんですけども、三鷹市ですけども、あそこでも税金とか、メンテナンスが厳しいというところがあって、三鷹のジブリの森美術館ですかね、あそこもクラウドファンディングということをやって、募集したところ、目標の300%が集まっているということを見ました。そういった税金を増やすという努力というのはどう考えていらっしゃるのかなということはお聞きしたいところになります。

○三浦保育課長 税金増の取組についてということによろしいですかね。

○参加者 はい。

○西岡市長 ありがとうございます。極めて大切な視座でご意見、ご質問をいただいたと思っております。

税金を増やす取組、これは様々なことに取り組んでいますが、現在進行形です。限られた時間なので、なるべく簡潔にご答弁をさせていただきますが、まず、人口増というのは、完全に税金だけ見れば、もちろん歳出も増えるんですけども、税金という意味

では人口増というのがありますね。それから、小金井市の場合は、個人市民税の比率は高いんですけども、法人市民税の比率が非常に他市に比べて少ないので、企業といいましょうか、工場を造ったりするのは考えていませんし、毛頭そういう考えはないんですが、法人税の比率を上げたりするということが指摘されることです。

あるいは他市に比べて、小金井市の税金の中で比較的少ないと言われているのは固定資産税の部分も比較的他市に比べると弱い。しかし、これは、小金井市は公園が多かったり、大きな大規模公園があったり、大学が多かったりしますから、市の全体の面積の中で、また住宅地が多いということがありますので、これは小金井市が住宅都市であるということの特性なものですから、これもなかなか課題のあるところがございます。

しかし、一方で、税金を増やすという意味では、先ほどの人口増という視点もありますけれども、駅周辺のまちづくり、これは高度化・高架化することによって、付加的な価値として税金が上がっていく、二次的な効果として税金が上がっていくという側面があります。

例えばご承知のように、武蔵小金井駅の南口の再開発第一期、そして、昨年6月に第二期の再開発が完成しました。従前・従後、再開発をやる前とやった後では、税金の差が単純計算ですけれども、二つ合わせると総額で7億円近い税金増にはつながっていくというふうに当時は試算していました。

しかし、新型コロナウイルスの影響で、今、税金は下降傾向にありまして、より一層厳しさを増しているというのが率直な今の見通しです。リーマンショック並みになるかどうか、この辺のところは今後の動向次第でありますし、コロナの期間がどの程度まで及ぶのかというところがまだ見通せないところですが、現在のトレンドとしては、税金は下降傾向という想定です。非常に厳しい状況です。

ちなみに、人口減少については、昨年、令和2年度まで、今もそうですが、小金井市は微増傾向がずっと続いています。全国の自治体とはちょっと違う流れでして、人口が増えてきています。昨年、令和2年度は東京都内で初めて、人口増加率が都内の自治体全てで1位になりました。人口増加数は多摩地域でも初めて1位となりました。しかし、令和8年、9年をピークに、もう緩やかに減少していくという大きなトレンドがあらうかと思っています。

それから、ふるさと納税やクラウドファンディングにも実は、小金井市はもう既に取り組んでいます。コロナ対策に頑張っていただいている医療従事者の方々にクラウドフ

アンディングを初めてやりました。ふるさと納税も一生懸命、地道にやっていますが、おっしゃるとおり約4億円程度の、本来小金井市に入ってくるべき税収が他市に流れ、そして、小金井市が取り組んでいるふるさと納税の額は4億円に対して、大体2,000万円台ぐらいという状況です。このトレンドは小金井市だけではなくて、東京都内の自治体は、ほぼ全ての方々が大体大きな影響を受けているというような状況です。

その他、行財政改革プランというものを策定いたしまして、いろいろな税収歳入構造の改革に一生懸命取り組んでいるところでありまして、税収を増やしていく、歳入を増やしていく取組は、これは未来永劫、永続的に取り組まなければいけない市政の重要課題だと思っております。一方、もちろん歳出の構造もやはり考えていかなければいけないというのを考えているところであります。

ちなみに、ご参考までに申し上げますと、私が市長に就任してから、特に子育て、子育て、教育環境の向上というところに取り組んでまいりました。児童福祉費といわれるものを含有する民生費ですね。高齢化が非常に進展していますので、この民生費というものが右肩上がりです。どんどんこれから住民福祉の需要が高まり、一生懸命頑張った行財政改革の成果というものが、これからどんどん福祉の分野に展開していかなければいけない、この大きな構造があるかと思っています。

ちなみに、児童福祉費につきましては、平成26年に1人当たりの児童福祉費は、これは子どもに関わる、教育費を除く、まさに保育園などに係る児童福祉費なんですが、1人当たりの経費は5万5,167円で、26位でした。しかし、その後、だんだんだんだん順位が上がりまして、令和2年度の決算では10万2,165円。多摩地域で初めて、児童福祉費が小金井市は1位になりました。それだけ子育て、子育て、教育環境の向上に全力で取り組んできた成果であります。

しかも、これからも市が、この住民福祉の増進というものを大切にしていきたいと思っておりますので、先ほど申し上げましたように、建て替え費用の積立てというところまでは、小金井市は非常に財政状況が厳しかったので、十分そういった部分に財源を充てることができなかったことは否めませんが、少なくとも待機児童解消や保育士の方々の処遇の改善などなど、必要なサービスの向上に向けては、一生懸命、取り組んできたところでありまして、そういった視点から考えてみましても、これから財源がとても必要になってまいります。

そういう意味からも、今般の段階的縮小や、保育の総合的見直しの方針案というもの

につきましては、私としては、どうか将来のためにも、今の小金井市の状況を改善していくためにも、ご理解をいただきたいと考えているところです。

歳入の確保については、保育園という視点だけではなくて、小金井市政のためにも、これは当然、増やしていく努力をしなければいけない。そのことは十分認識しているところであります。

以上です。

○三浦保育課長 では、次の方にご質問を進めてまいります、いかがでしょうか。

一番奥の方。

○参加者 今日はありがとうございます。特別な配慮の必要なお子さんへの受入れということで、そこが私たちは一番気になっていまして、今後、現在の公立園の定員を12名に増やして、3歳未満のお子さんを受け入れていくということで、拡充ということは、それはそれでいいんですけども、ただ、園が減った上でのそういうこととなりますと、やはり住んでいる地域によっては、そのサービスを受けやすいか、受けやしくないというところに差が出てくると思うんですね。

また、家庭的な負担ということもありますし、もう一つは、やはり自分の住んでいるところの近くでいろんな子どもが、多様な子どもと一緒に生活をできる環境を市としても確保していただきたいなという気持ちがあります。

なので、例えば、うちはわかたけですけども、坂下で、もしわかたけがなくなったような場合に、坂下エリアというのは、そういう子を受け入れるところが少なくなったりすると、ちょっと離れたところまで通わなくてはいけない。

やっぱり私立園の中で加配の先生を増やせるような手だて、補助金を出すとか、先生の補助を人材的に入れるとか、そういったことを私立園に対してもサポートをしていただきたいなというのがあります。

先日の運協のほうでもお願いが出て、今後も私立園が開設したときには、そういうことも条件にしていると言っていたんですけども、それが各園の努力ベースになっているのか、それとも市のほうで既に財政的な後づけがあってそういうことをおっしゃっているのか、そこら辺を確認したかったです。

もう一つは、先日公開されていた市の回答の中に、私立園の面積は把握していませんというところがあって、私は、え、面積すら把握していないとびっくりしたんですけども、認証するためにはそういうところは把握されているんですね。園児1人当たり

の面積がどれぐらいこの園はあるとか、そういう一定の基準がないと認証できませんもんね。そこで把握していませんという回答が出ていたのはどういうことなのかなというのがちょっと疑問です。

○三浦保育課長 特別支援保育の市の取組と、私立保育園さんの面積についてということによろしいですか。

では、回答をお願いします。

○平岡保育政策担当課長 すみません。若干、事務的な部分も含まれますので、私のほうでご回答させていただきます。

まず、特別な配慮が必要なお子さんの件ですけれども、市のほうで、そういったお子さんに担当の方をつけていただいた場合に、民間保育園には1人当たり幾らということ補助を出しているという制度はもう以前からやはりあります。

ただ、公立も民間もそうなんですけれども、やはりついていただく方の確保がとても難しいというところもあたりして、補助金として用意はさせていただいているんですけれども、人材確保自体のほう難しいというお話は聞いています。

公立の場合は、公務員という制度の中でということになるので、なかなか一部の職種の方だけ急激にお手当を上げるというのはちょっと制度上難しいところがあるんですが、人事の担当のほうと併せて、採用ですとか、そこは力を入れているところではあります。

新しい園についての対応なんですけれども、これまでも今までの園にもお願いをしてきた経緯はあるんですが、来年4月にオープンする園については、足かけ2年かかった園と、それよりも早くできている園とあって、ちょっと違いがあるんですけれども、今回オープンする園の中で、特別な配慮が必要なお子さんの受入れについて条件にさせていただいた園もあります。

そういった効果もありまして、今回の4月一斉入所の募集の中で、最初から枠として募集を出していただいている園があったかなと思っていますので、お願いベースの中でかなえていただいた園もあるんですけれども、今までなかなかお申出があつてそういうところで申し込まれなくて、一般枠でお申し込みされる方もいらっしやっただけで、どちらがいいかというところは難しいんですが、この募集というのがこのところずっと公立でしか行われていなかったんですが、久しぶりに民間さんでも今回は募集をしていただける園が出てきているという実態はあります。

ちょっと長くなって申し訳ありません。

もう一点、面積の件なんですけれども、やはり書面という関係もありまして、詳細をこちらのほうで細かいお問合せをすることができなかったという状況があります。ですので、当然、各部屋の面積が基準を満たしているという部分については、市のほうでも確認をしているんですが、保育園の建物自体の総面積であるとか、敷地面積自体については古い園もあつたりしますので、ちょっとにわかには全て把握できているという状況がなかったものですから、ちょっとお答えとしては説明が不十分だったかもしれないんですけれども、施設面積ですとか、敷地面積の部分を含めるとなると、全てをこちらのほうで把握できていない場合もありますので、そういったお答えをさせていただいたところなんです。ですので、1人当たりの保育室の面積がどうなっているんですとか、そういう部分については、当然、市のほうではつかんでいるところは確かであります。

以上です。

○三浦保育課長 ありがとうございます。

皆様、あと30分ぐらいですけれども、もし皆様、ご都合のある方は途中退席も結構でございますので、引き続き質問のほうを進めてまいります。

では、黒いお召し物の方。

○参加者 ご説明ありがとうございます。わかたけ保育園に在園しています。今から申し上げることは、わかたけ保育園に関しての意見及び質問ですが、さくら、くりのみの廃園についても十分に議論をいただきたいと思っているので、さくら、くりのみ保育園を含んだ3園の廃園を認めた前提ではないということをお知らせください。

6ページ目の3の「新たな見直し方針」で、わかたけ保育園は廃園対象と明確になっているんですけれども、今後の情勢を踏まえて決定するというのであれば、これから条例改正に向けて案を取っていく段階で、わかたけ保育園は廃園対象から外していただいて、存続なのか、民営化なのか、廃園なのかと選択できるようにしていただけないかなと思っています。

そう思ったのは、この案の参考資料にある12ページ目の保育サービスの拡充概要も、13ページ目の財政効果の民営化と段階縮小の比較も、わかたけ保育園が存在する前提でまとめられていて、わかたけ保育園を廃園対象とした場合のサービス拡充内容や財政効果が、ちょっと私には読み取れませんでした。

その効果が見極められていない中で、わかたけ保育園も廃園対象と確定してしまうことは、わかたけ保育園に在園されている保護者はもとより、卒園保護者や、約50年に

わたって温かく見守ってこられた周辺住民の方々にはご納得いただけないものと思
いました。

意見シートの回答にも記載がありまして、市も認識されていることと思いますが、わ
かたけ保育園については、ほかの公立園と異なっていて、周辺地域で保育園が少ないと
いう特殊事情があると思っています。前原坂下地域については、保育園開設を進める際
も事業者から提案いただく機会も少なく、また、開設まで至らなかったことから、保
育園用地として活用できる土地の確保が難しい地域であるということも市の回答からご
ざいました。

そのような事情があるなら、なおさらこの土地は今後も保育園用地として活用するべ
きで、その選択肢は廃園だけではなくて、公立園として存続、あるいは財政負担を抑え
るための民営化という選択肢もあると思っています。

現在の案では、その効果も不明瞭なまま、廃園対象園として記載されていますが、6
ページ目で対象園から、わかたけ保育園を外していただいて、7ページ目の2行目の記
載のとおり、今後の社会情勢を踏まえた影響や効果を見極めた上で、存続、民営化、
廃園のどれが最も適切か、その施設が継続利用できるぎりぎりまで、市民を含めた十分
な議論を尽くして、最善案を選択できるようにしてはどうかと思いました。

ご検討いただけると幸いです。よろしく申し上げます。

○三浦保育課長 答弁をお願いします。

○西岡市長 ご意見いただきましてありがとうございます。

わかたけ保育園につきましては、ご指摘のように、今後の社会情勢や、2園の段階的
縮小の状況及び市内保育ニーズの状況等を踏まえつつ、今後、決定することとすると明
記させていただいております。一方、段階的縮小を行って廃園していく対象園としてい
ることも事実です。

そして、ご指摘のように、財政効果や、また、保育サービスの拡充などにおいて、ま
ずは2園、くりのみとさくら保育園ですね。こちらを段階的縮小から廃園にした場合の
ことを想定した比較や明記と異なるとなっていることも事実でございます。

そして、ご指摘もいただいたように地域性ですね、その地域性の観点も、私たちも、
前原町や、貫井南町、いわゆる坂下地域ですね。私も地元なものですから、あの近辺、
あの辺りの状況のことは十分把握しておりますし、市の担当も地域性のことについては
把握しております。

これから、わかたけ保育園の保護者の方々ともこのような会を持たせていただきますから、またさらに様々なご意見をお寄せいただけるものと思っておりますが、今日は、ご意見として、まずはお聞かせいただきたいと思っております。

私どもの掲げた見直し方針案としては、総合的な判断といたしまして、施設の老朽化や待機児童の解消、いわゆる保育園の需要と供給の総合的なバランス、そして、市の将来、こういったことを考えた中では、2園公立保育園は存続、継続して運営していくという考え方をまとめたところではあります。

そしてさらに、わかたけ保育園についての詳細な検討は、この2園の進行状況を見ながら判断していく。当然、令和10年3月31日以降ですから、令和11年以降になることは、もうそれは間違いないんですけども、そこで判断していきたい。どのような時期がいいのかについては検討させていただこうということが、ここには明記されております。

いただいたご意見は、本日の段階でのご意見としてお聞かせをいただきたいと考えております。

補足があればお願いします。

○大澤子ども家庭部長 今、市長のほうから言われたところでございます。我々としても前原地区に関して、保育園が少ないと十分認識しているところでございます。その反面、築50年経過しているというところもございまして、これから説明会をさせていただき、また、最終的にはこの見直し方針案の案というものを取っていくというところも含めて、今日の時点では、ご意見というふうな形で承り、わかたけ保育園につきましては真摯に対応していきたいというふうな形で思っておりますので、その旨お話をさせていただきたいと存じます。

○三浦保育課長 よろしいですか。

○参加者 ありがとうございます。よろしく申し上げます。

○三浦保育課長 まだ発言されていらっしゃる方はどうぞ、挙手をお願いします。

○参加者 先ほどの修繕、建て替えの積立てのことでちょっと気になったのが、あと十何年かでもた50年を迎える小金井保育園、それから、まだ大分先ですけども、けやき保育園については、これから積立てをされていくのか。それとも、また老朽化した段階で廃園という方針なのか。現状、今どのようにされているのか教えてください。

○大澤子ども家庭部長 残る園への対応という部分のご質問かと思っております。今、市のほうもこう

いった公共施設のマネジメント担当の課長を4月に配置をさせていただいているところでございます。そういった状況の中で、小金井の保育園に限らず、私は学童とか様々扱っておりますけれども、これは児童福祉施設含めても、こういった積立てのところは、まだなかなかできていない状況があり、その他の教育施設等につきましても、基金はあるところがございますけれども、見通しは立っていないという状況もございます。

先般の議会の中でもこれが話題となっており、今後の積立てにつきましては、全部、公共施設の大きなくくりでいくのか、こういう個別、例えば保育園関係というようなことで個別にやっていくのかというところは、検討していくという状況を捉まえながら、運協とかそういうところで、またご報告をさせていただきたいというふうな形で思っているところでございます。

それとあと、通常の日常の修繕の関係でいきますと、ちょうど今、予算編成時期というところになってきております。通常、まず、担当レベルのほうで施設のほうを見て、その状況を公共施設のマネジメント担当であったり、建築の担当、そういった者が最終的な確認をして予算の対応していくというふうな形で方針が出ておりますので、今後も突然壊れたというふうな形になれば、また話は別でありますけれども、そういった方向性が今、こちらのほうに出ておりますので、この場をお借りしまして、そのようなご発言をさせていただきたいと存じます。

以上です。

○三浦保育課長 よろしいですか。

○参加者 ありがとうございます。

○三浦保育課長 まだ一度も発言されていない方で発言を予定している方。最前列の方。

○参加者 今日はどうもありがとうございます。根本的なことで、皆さんの考えを伺いたいと思っていることで。今回やはり唐突に、急に話が、お便りとして来て、びっくりしたというのが一番ありまして。お話から、私立園がたくさんできるとか、待機児童が減少している、お金があまりなくて建て替え費用もない、そういうこともすごく分かるんですけども、ただ、今まで公立保育園をどのような考えで運営されてきたのか。

私が子どもを公立園に預けているのは、園庭がちゃんと広くあって、本当にのびのびと、見るからにのびのびと過ごせるというのをとても気に入ったので、何としても公立に入れたいと思って入れさせていただいているんですけども、民間保育園さんは、悪く言うわけではないんですが、園庭がなかったりとか、保育士さんの質というか、教育

というか、そういうのも何かがちょっと違うような気がして、公立と比べて心配な面が多々見られている気がします。

園の数が増えたからいい、待機児童が減るからいいということじゃなくて、何としても公立を維持するお金は工面していただきたいと思うんですけども。今回のこの唐突な感じから考えて、すごく考えて考えて、仕方なくこうなりましたというふうにはどうしても思えないので、公立保育園をどのように考えているのかなと、お考えをお伺いしたくて、お願いします。

○西岡市長 ありがとうございます。私、また担当から、まずは私からご答弁させていただきたいと思います。

公立保育園は歴史のある保育園でもありますし、小金井市の社福さんとともに、小金井市の保育園の時代をつくってきた大切な保育園であることは今でも変わりません。卒園生も多く、地域にも密着している保育園です。たくさんの保育士の方々がそこで学び、保育士さんたちも、そこで子どもたちと一緒に育ってきた。大切な保育園であることは、もう十分承知しております。

しかし、この保育の総合的な見直し方針案や、あわせて、資料としてお示しをしております検討結果にも明記されておりますように、小金井市のこの公立保育園の在り方などについては児福審、保育検討協議会、運協、保育計画策定委員会など、実に長い間ずっと議論をしてきたテーマです。

その中で、私といたしましては、この公立保育園、役割としては、民間も公立も同じ認可の保育園であれば、これは同じ保育園であって、そして、公立保育園というものは小金井市が実施主体となっておりますから、市が掲げる保育の目指すべき姿、この5ページのところから書いてあるところですね。大きく4項目あるんですけども、この4項目を、市と一緒に実践していく場であるというふうに考えておまして、私どもとしては、今置かれている様々な課題や現状を鑑み、公立保育園を2園継続して、これから運営をしていく中で、令和10年4月1日以降は、公立保育園2園、わかたけ保育園もまだこのときは存続してございますが、まずは公立保育園3園、そして2園という状況の中で、存続をしていく中で、市としての役割をここに掲げております4点について実践していく場であってほしいというふうに考えているところでございます。

保育園を希望される方々には多様な選択肢があるということも十分承知しております。中には場所で選ばれる方もいらっしゃいます。駅前がいいという方もいらっしゃいます

し、場所ではなくて、保育環境を優先する方もいらっしゃいますし、そのお考えは実に多様、自宅に近いところを希望する方もいらっしゃいます。

子どもとしても、もちろん園庭があったほうが子どもたちにとっては、よりよい環境であるということは十分承知しておりますが、駅前で園庭のある保育園を新設でというのはなかなか難しい現状があることも否めませんが、多様な環境が保護者の方々にあるということも十分承知しているところであります。

今後、公立保育園としては、先ほど申しあげましたこの四つの役割を果たしていく場として、小金井としては継続して運営をしていく立場であるというふうに考えているところでございます。

また、唐突にということについては、冒頭来、おわびを申し上げているところでありますが、これから皆様方に私たちの方針案というものをご説明をするに際しましては、やはり相当な庁内での検討を進めていかなければいけないと。十分な検討がないままに私たちの考え方をお示しするという事は、これもまたあつてはならないということで、複数の案を幾つも選択肢を考えながら検討してきた結果としては、子どもとしては、この方針案というもので説明させていただくのが市としては最善と考え、お伝えをさせていただいたものです。

そういった皆様方からのお声をいただきまして、結果としては計画を1年間延伸したり、0歳児募集にしても、来年度につきましては継続をさせていただくということで、若干大きな方針変更をさせていただいた点もありますが、唐突な印象というか、唐突だということで、保護者の皆様方に不安を感じてしまうような状況になったことについては、市長としては深くおわびを申し上げたいと思っております。

冒頭、私からは以上です。

○平岡保育政策担当課長 平岡です。よろしく願いいたします。

市長のほうからも申し上げさせていただいておりますけれども、私たちも公立保育園をととても大事に思っているところに変わりはありません。5園残していけるという選択が取れるのであれば、このような会を、お話をすることはなかったなというふうに思っています。

しかしながら、やはり小金井市全体の中で、保育の課長が言う話ではないのかもしれないんですけども、やはり市全体として運営していくためには、いろんなところを改革していかなければいけないという状況は、平成9年からずっと続いてきています。そ

ういった中で、ほかの学童保育所もそうですし、学校給食もそうですし、今までずっと市で全てやってきたところについて、民間さんの力、協力もいただきながら、市をよくしていくためにやっていかなければいけないという立場にあります。

公立保育園については、そういった中で、現在は、建物の老朽化が一番状況が大変だというお話はさせていただいているんですけども、ずっとどうしていくかという話はこれまで長い間庁内でも、ほかの方々ともお話をしてきた経過はあります。

その結果、どうしてもこういう状況にしなければいけないというふうに、選択をしなければいけないというふうになったのは、やはり公立保育園、今までも地域のためにいろいろとやってきてもらっていたんですけども、やはり公立として、もっと広い視点で公立の保育士さんにお仕事をしていただかなければいけない時代になってきたというふうに思っています。

その一方で、なかなか市役所の職員をこれから増やしていくというのがとても難しい状況がやはりありましたので、老朽化というのものもあるんですが、今後、より広い立場でのお仕事をしていただく経験ある方々も必要になってくることから、公立保育園を全くなくすのではなくて、数としてはきちんと残していきつつ、経験ある方々に新しい取組を小金井市全体を見てもらってやっていただくと、そういうような考え方で、今回この案を考えさせていただいたというところもあります。

先ほど言っていたような視点で園を選んでいただいて、やはり運営している側としては大変ありがたい思いでいっぱいですけども、やはり公立保育園として、より地域というか、小金井市をより広い視点でサービス、取組を担っていただきたいというふうな思いを持っての方針案でもありますので、そのような形でお答えをさせていただきます。

○三浦保育課長 次にどなたかいらっしゃいますか。じゃあ、一番手前の方。

○参加者 今日のご説明ありがとうございました。質問が3点あるんですけど、P4のところ、築年数を見ると、今回、廃園案となる3園の中で、さくら保育園が一番築浅だと思うんですけど、先に先行する2園に含まれていて、先行2園を決めた背景があれば教えてください。

2点目なんですけど、質疑応答の中で、保育園の飽和状態は避けたいというお話があったかと思うんですけども、毎年、幾つか保育園を新しく、私立に入っていくって、で、古い公立が廃園になるという、築年数が古いという、その部分は理解できるんですけど、

納得はちょっとできなくて、その辺、何か説明をもう少しいただければと思います。

3点目、最後なんですけど、最後は、今回、市民として保護者から、こういった説明いただいたりとか、そのほかにも意見に対して、反映していただいているなどは思うんですけども、保育園で働いている職員の方々の意見を聞くような場というのは市として設けていただけないかなと思ってまして。職員の方々の不安って子どもたちに伝染すると思うので、職員の方々を不安にさせるような進め方はしないでほしいなと思っています。もし何か市として、職員の方々にやっていることがあれば教えていただきたいです。

最後は質問ではなく、思いなんですけど、●歳、●歳の2人をさくら保育園でお世話になってまして、園庭が広くて、すてきだなということと、異年齢保育はすごくいいなと思って、そこはすごく魅力的で選んだので。さっきクラウドファンディングとかの話もあったように、できれば縮小とか廃園ではなく、それ以外の続けていくような検討を進めていってほしいなと思います。

以上です。

○三浦保育課長 ご質問は3点ということによろしいですかね。

答弁をお願いいたします。

○西岡市長 ありがとうございます。ご質問も含め、またいろいろな思いもお聞かせいただき、ありがとうございます。担当ともどもご答弁をさせていただきたいなと思っております。

まず、先行2園と、築年数の関係とずれているのではないかというご指摘だと思うんですね。築年数で考えるなら、古いほうからという考えもあるのではないかと、そういったご指摘だと思いますので、くりのみ、わかたけ、さくら、この段階的縮小の方針と、築年数との関係の考え方について、後ほど担当のほうからもご答弁させていただきたいと思います。

先ほど職員、働いている保育士の方々と、経営サイドの私どもとしっかりとした話し合いをしてほしいし、不安に思っている保育士さんがいれば、そういったことが子どもたちにも影響を与えてしまうのではないかというご指摘は、重く受け止めたいと思います。ご指摘のとおりだと思います。

この間、小金井市では、保育課、いわゆる子ども家庭部、市役所の担当課、そして、保育園で働いている現場の皆様方と、いろいろなレベルで協議をしたり、話し合いをする場があります。今回もこの方針案をお示しするに当たりましては、その一つとしては、

組合という存在もありますので、その労使交渉、また、その労使での合意というものが必ず必要になります。なので、そういった分野については、市役所の総務部という部署を中心に、組合というフィールドを通じて、この方針案に基づき、職員の配置、あるいはその働き方、こういったことについては、かなり微細に至るところまで話し合いをさせていただいております。

そして、これまでの民営化のときもそうなんですけれども、市としての案を決める際には、必ず合意をしたり、覚書を交わすなどが必要となってまいりますし、ご指摘のように、職員の皆様方が現場を支えてくださっていますので、その現場を支えてくださっている保育士の皆様の理解や、子どもたちのためにこれからも保育士として、保育園で働く職員さんは保育士さんだけではありませんので、看護師さんや、給食調理員さんや、また、いろんなお手伝いをしてくださっている保育支援をされている方も含めて、多様な職種の方のお力をいただいておりますけれども、その職員の皆様方の理解もいただき、そして、その影響が子どもたちに悪い面が出ないようにしなければいけないというのは、しっかり私は受け止めなければいけないし、そうあるべきだと考えておりますので、引き続き担当職員共々、一生懸命努力してまいりたいと考えております。

本当に貴重なご意見をありがとうございます。

○平岡保育政策担当課長 では、築年数と順番の関係というところなんです。今までの中でもちょっとお話が出ていたと思うんですけども、やはり地域的に、近隣の保育園の状況というのが一つ、大きく影響しているところがあります。あと、こちらのほうで、決め手とまでは言えないんですけども、残念ながら応募の人数などの状況を見ますと、さくら保育園さんのほうがちょっと低調であるという状況も加味させていただいた部分はございます。

ただ、3園挙げさせていただいているのは、先ほどわかたけの方からご質問、ご意見もいただいているんですけども、やはり建物として築年数の状況、プラス、設計が旧耐震という古い法律のほうの基準で造られているということがあります。耐震のところについては、当然、耐震補強工事はしていますので、そのところはクリアはされているんですけども、建物として、一つの古い建物のカテゴリーの中に入ってしまうというところでは、3園同じという考え方は持っているところであります。

また、新しい園をどんどん造って行って、急に公立が廃園でというところがどうもというお話もあったと思います。これについて、私たちとしては、最初は民営化というところで園の数として維持をしていく考え方も持っていたんですけども、このとこ

ろでの待機児童などの状況ですとか、やはり建物の老朽化と今後の建物をどうしていくかというところを考えたときに、なかなか今の建物の状況のまま維持をしていくというのは難しいというところがありました。

ですので、確かに、民間園を多く造り過ぎたので公立を減らすというようなご意見をいただくこともあるんですが、決してそういうふうに水を向けたわけではなく、やはり待機児童は、なかなか園を増やしても応募される方が増えて減らない状況の中進めていって、今の状況があるというところですので、最初から民間園をいっぱい造って、公立を不要にしようという考え方で進めてきたわけではないというところだけのご理解いただきたいと思います。

以上です。

○三浦保育課長 先ほど手を挙げていた方。

○参加者 小金井保育園に通っております●●●と申します。我が家は、夫も小金井保育園だったもので、親子2代にわたって大変公立の保育園にはお世話になったということで、小金井市にはまず感謝を申し上げます。

私のほうからの質問なんですけれども、小金井市の、そういうことがないとちょっと見なかったんですけれども、市民参加条例、これを今回の件で拝見する機会がありまして、とてもすばらしい条例だなと感じたんですね。市政の主役は市民ですと。市民の意思を反映する市政であるべきだと。例えば今回のことって、公立の保育園に通っている保護者だけ、直接的な影響を受けるのは該当する園に通っている保護者だと思うんですけれども、市民全体で、何にどうお金をかけていくのか。これが問われるところなのかなど。大事な問題なのかなというふうに個人的には思っています。

この市民参加条例の市民参加というところが、今回の説明会がそれに該当するものという位置づけなのか、あるいは、今後の何か市民に対しての説明会、2回予定ですが、行われると。それで市民参加ということになるのか。

あるいは、あともう一つ、私は署名したんですけれども、市議会で可決された、十分な協議を求める。この対話というところは、今後どういう形で、それは運協というところになるのか、あるいはまた別の場でやられるのか。この先の段取りをちょっとお伺いしたいと思いました。

あと、先ほどの方も言われていたんですけれども、実感として、子ども1人当たりの保育士数とか、園庭の有無とか、公立園に持っている体制というのは本当にすばらしい

と私は感じていて、それは、これまで長く続けてきてくださったことには本当に感謝しています。

子どもの権利ですね。子どもの権利を考えたときに、そういった安心した中で毎日の日々を暮らせるというのは本当にありがたいことだなと思っていて、それをこんなに簡単に廃園という形で終わらせてしまっているののだろうか。50年これまで続けてきたものを、なくしたものをまた復活させるのはとても難しいし、できないと思うんですね。今後、より不安定な時代になっていきますので、私としてはぜひ残していただきたい。そう考える市民の方がもし数として多いのであれば、そういったほうに舵を取っていただけないか。

新しい新庁舎、こちらにかかる費用はお幾らだったのでしょうか。そちらに対しては積立ては今までやっていたのでしょうか。これは質問です。それと比べて、保育園の建て替え費用4.5億ぐらいですかね。これって出せない金額なのでしょうか。

市民が何にお金を出したいのか、それをニーズとしてキャッチアップして、それを市政に反映するということをご希望できないのか。ここまで固まった案でお示しされていて、今後どういう形で市民の参加というのをなされる予定なのかなと思いました。

質問としては以上です。

○三浦保育課長 すみません。対応をこの後どうしていこうのかというご質問と、あと、庁舎のご質問でよろしいですか。

○参加者 はい。

○三浦保育課長 はい。では、2点ほどよろしく申し上げます。

○西岡市長 ご答弁させていただきたいと思います。お答えいたします。まず、市民参加条例に照らして、趣旨のご意見、また、今後の進め方、また、市民参加をどのように進めていくのかというご質問。それから、庁舎のご質問などをいただいております。

まず、非常に大切なこと、それは、今、お子様を保育園に預けていらっしゃる保護者の皆様方のお声を伺いながら、市としての説明、考え方を丁寧にご説明をさせていただいて進めることが肝要ですし、また、卒園生や地域の方もいらっしゃいます。そして、納税者である市民の方もいらっしゃいますから、市民の説明会も開催をさせていただきます。

今後、総計8回この説明会があるわけですが、まずは全ての会にしっかりと臨ませていただいて、そこでいろんなご意見、ご質問、ご批判、いろんなお声があると思

いますので、まずはしっかりとお聞かせをいただいて、その後の進め方については、またしっかりと考えさせていただきたいと思っております。

そして、いわゆる一般的な手続になりますが、これは条例改正というものが必要になりますので、小金井市議会でのご議決というものが必ず必要となりますので、そういった議会的な、いわゆる民主的なといいますか、そういう手続ですね。市に定められた手続にのっとっていきますと、議決というものがなければ、このお話は実現することはありません。できないことです。市議会の議決が必要となる案件でもあるということになります。

私としては、今預けていらっしゃる保護者の方々、そして、何よりも今を生きる園児、子どもたちの最善の利益、子どもたちの目線、子どもたちのことをやっぱり何よりも考えて臨まなければいけないというのが市長としての立場だと思っておりますし、また、あわせて同時に、小金井の市政全体のことに私も責任を持たなければいけません。

これからも、この12ページに触れられているような、これまでなかなか充実することができなかった多様な課題があります。政策課題。特別支援保育の拡大、アレルギーのある児童の積極的受入れ及び安全対策の充実、入園している要保護児童及び入園児童が要支援家庭の場合の同家庭への支援、地域子育て支援機能の充実。これは、今、全く存在していないものでありますが、(仮称)巡回保育支援チームの新たな設置、そして、保育の質のガイドラインの普及・活用促進、こういったことを実現していくためにも、市の子育ち、子育て、教育政策のさらなる充実、切れ目のない支援であったり、経済的にいろいろな課題を抱えていらっしゃる方々をしっかりと支えていくということや、あるいは、特別支援教育やアレルギー対応などのこれまでの取組をさらに充実させていくということにもっともっと取り組んでいきたいと考えております。こういったことを総合的に判断いたしまして、今回の決断を方針案という状況ではありますが、させていただいて、臨ませていただいているというところであります。

したがいまして、特段といいましょうか、市民参加条例や市民参加の重要性は十分認識しておりまして、開かれた民主的な市政運営というのはとても大切ですし、市民参加条例に違反するような市政運営ということはあってはならないと思っておりますので、そのことは十分踏まえて臨ませていただきたいというふうに考えております。

新庁舎及び(仮称)新福祉会館建設についてのご質問であります。庁舎のこの建設問題は、これも半世紀ぐらいにわたる小金井市の大変重要な課題の、最重要課題の一つ

でして、深刻な庁舎の老朽化、それから分散状態であります。それから、第二庁舎という8階建ての建物も、もう28年間ずっと借りたままということで、年間約2億4,000万円の賃料を毎年支払ってきております。これも財政的な大きな課題です。

あわせて、今市が実施設計の作業を行っておりますが、単なる庁舎建設だけではなく、既に閉館してしまっていて存在しなくなってしまう福祉会館という、これは平成27、28年まで存在していた大切な複合ビルがあるんですね。これがもう耐震改修すらできないという非常に古い建物でして、安全上、速やかにそこは出なければいけない、建て壊さなければいけないという事態だったんです。これは私が市長になる前です。

なので、この福祉会館という機能も併せてつくろうということで、小金井市の庁舎を市役所と複合的な施設である福祉会館、この二つの建物を一体の建物として建てるという方針になっているのが小金井市の庁舎建設の計画でございます。

現在、建設費については積算中なんですけれども、基本設計の段階では、一応8億4,000万円という形で積算をしておりますが、今、実施設計を行っている段階でございますので、これから実施設計による最終段階の積算というものが出てまいります。昨今は、建設資材の高騰や、いろいろな社会的な背景、世界的な経済動向によって、建設単価というのはいろいろと上下動するんですが、上振れリスクが高いと言われている状況です。

なお、基金をどれぐらい積み立ててきたんですかというご質問ですが、私が市長になる前は7億6,000万円ぐらいしか庁舎建設費がありませんでした。しかし、庁舎の建設基金の積立てを行わせていただきまして、今、27億円ぐらいの基金が積み立てられています。市長になってからは約二十数億円の基金を積み立てました。

それから、福祉会館も建設しますので、地域福祉基金というものも積み立ててきているものがあるんですが、これが約8億円程度あるという状況。その全てを投入するわけではありません。大体6億6,000万円ぐらいの基金を、この福祉会館の建設に充てていくという考えになっているところではありますが、足りないといいましょうか、基金で賄えない部分については起債というものを発行いたしまして、庁舎、福祉会館は非常に長く、十数年、時には大規模改修をしながら非常に長く使う建物なので、起債というもの、いわゆる借金です。公債費ですね。こういったものを活用させていただいて、これは福祉の拠点、防災の拠点、行政の拠点となるもので、とても大切な市の施設になりますので、こちらについてもしっかりと取り組んでまいりたいと考えているところでご

ざいます。

私からは以上です。

○三浦保育課長 あと、どなたかいらっしゃいますか。

○参加者 さくら保育園の●歳児に子どもを預けております●●●と申します。よろしくお願いたします。今日はこのような場をつくっていただきまして、とても感謝しております。ありがとうございます。

私からは1点ご質問させていただきたいというふうに思っております。今日、頂いた資料、総合的な見直し方針(案)【修正版】の4ページ目なんですけれども、イの「施設(建物)の課題」というところで、ちょっとご説明の中でもあったと思うんですが、維持管理に係る経費も大きな問題ということで、国や都の補助制度がないまま建て替え事業を行うことは、将来的にも困難と言わざるを得ないという辺りですね、ここの資料の真ん中に表がついているんですけれども、築年数でいくと、くりのみから、53年、わかたけ52年、さくら保育園の49年ということで、かなりの築年数が経っているということで、これを見て思ったのが、ここの施設の課題のところでは老朽化ということには言及されているんですけれども、昨今、一昨日もなんですけれども、最大震度5強の地震が発生するというようなところで、耐震対策というものが実際に、例えばくりのみ、わかたけ、さくらについて取られているのかどうか。

具体的に言い換えますと、耐震基準もたしか昭和56年ぐらいで見直しをされているというふうに思うんですけれども、旧耐震基準、昭和56年以前では、震度5強ぐらいを想定した建物の設計になっていたというふうに認識しているところです。

まず1点目のご質問なんですけれども、くりのみ、わかたけ、さくらについては、昭和56年以前に創設されていると思うんですが、その後、耐震診断を行った結果、耐震補強工事などは行われているのかどうかというところをご確認させていただきたいということと、もし、耐震補強工事を行っていない場合、今このような形で市立保育園の存続をどうしていくのかという議論が行われている中で、あまり市立保育園に費用をかけるお金がないという中で、このまま耐震補強工事も行われないうまま、ずるずると行って、この状況が続いていくのかというところを私個人としては気にしておりますので、その点について、今現在の市におけるご見解をお聞かせいただければというふうに思っております。

以上です。

○三浦保育課長 耐震補強の関係でよろしいですか。

○参加者 はい、そうです。

○平岡保育政策担当課長 事務的な部分ですので、私のほうでお答えさせていただきます。

結論から申し上げますと、耐震補強工事は3園とも完了した状態で、今運営している状況であります。

○参加者 ありがとうございます。安心いたしました。

○三浦保育課長 取りあえず予定時間を15分ほど過ぎたところですが、皆様、一通りご発言いただいて、最後、もう一つだけという方がいらっしゃればお受けいたしますけれども、いかがでしょうか。

よろしいですか。

では、園のほうでお子様をお預かりしている関係もございますので、本日の説明会につきましては、これまでとさせていただきたいと存じます。

なお、本日いただきましたご発言につきましては、先ほど冒頭申し上げましたとおり、氏名等を伏せさせていただいて、会議録として後日ホームページに掲載をさせていただきますので、ご了承をお願いいたします。

では、長時間にわたりまして参加をいただきましてありがとうございます。

以上で終了させていただきます。